

【優秀賞】

団体名	白い森地域学校協働本部
活動の内容（概要）	白い森地域学校協働本部は、小学校における地域学習、地域の方々による授業サポート、中学校の職場体験、高校のインターンシップ、キャリアプランニング研修等、児童生徒のキャリア形成に関わる体験学習や交流活動に多くの地域人材、地域資源を生かすコーディネーターの役割を担っている。また、学校教育との調整を図りながら児童・生徒のキャリア発達を促す多様な体験や交流活動を自主企画、運営している。

受賞理由（審査委員からのコメント）

- 白い森地域学校協働本部が町民を巻き込んでの町民総がかりのキャリア教育となっているところで協力性を評価した。町民の生きがい、やりがいにも貢献している。特に保育園からの保小中高一貫教育、系統的なキャリア教育を意識しての活動となっているところが素晴らしい。また協働活動推進員が町から配属されるなど継続性が担保されている。職場体験について、もう少し独自性と広がりがあると、より一層よい取組になる。
- 地域の特性を生かした活動、児童生徒の自己肯定感や学習意欲を意識したプログラム、継続性ある取組である。
- 10年にわたる長期の取り組みであり、小中連携などとても良い内容。
- 町をあげてキャリア教育を推進していくためのビジョンと全体計画を明確に掲げ、平成14年からキャリア教育を柱にした教育活動に継続的にチャレンジしていることは評価できる。社会に開かれた教育課程の実現のためにも学校運営協議会を町内4校合同での開催やパートナー企業との連携だけでなく白い森子ども応援隊として町民の活動参加も持続可能な形態や地域創生からの視点でも可能性を感じる。全国学状の結果からも高い自己有用感、社会性、社会貢献への向上は積み重ねの強さである。
- 地域における小中高一貫教育という取り組みによるキャリア教育の好事例であり、町民や地域の40もの団体が幅広くかかわっているところが強みである。町からも推進員4名が配置になっているという、産学公の強い連携による組織的活動の効果が感じられる取組である。中学・高校のボランティアの協力では、当人たちの成長にも繋がっているだろう。
- 町民全体で子どもを育てる気運が醸成され、地域の教育力の高まりが感じられることが推薦ポイントです。また、保小中高一貫キャリア教育全体計画に基づき、活動を支援していることや、地域学校協働活動推進員4名のうち2名が地域の実情に精通した教員経験者であることなど、学校、地域の両者に精通した総括的な取組みとなっている。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等）】

白い森おぐに保小中高一貫教育推進協議会、一貫教育キャリア教育推進部会、小国町教育委員会、山形県立小国高等学校、小国町立叶水小中学校、小国町立小国小学校、小国町立小国中学校

【行政（首長部局等）や地域・社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

小国町合同学校運営協議会（町内4校の学校運営協議会統括する白い森おぐにの教育プラットフォーム会議）、山形県立小国高等学校学校運営協議会、小国町立叶水小中学校学校運営協議会、

小国町立小国小学校学校運営協議会、小国町立小国中学校学校運営協議会、
町内協力企業・施設（30社）、子ども健全育成パートナーシップ企業（クアーズテック株式会社 日本重化学工業株式会社）、白い森子ども応援隊

活動開始の経緯

小国町は平成14年からキャリア教育を柱の一つに据えた小中高一貫教育を推進し、町内各校が校区の理解と協働のもと、体験や交流を重視したキャリア教育を積み上げてきた。しかし、学校統合による校区の広域化に伴い、地域と学校の新たな協働体制の構築が必要となった。平成26年に設置された白い森地域学校協働本部は、全町的な規模で町内各校の教育活動をサポートし学校の教育活動を地域の活性化にもつなげる町民総がかりの教育の中核を担ってきた。一貫教育は平成30年度から保小中高一貫教育となり、白い森地域学校協働本部の支援の場も広がっている。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本町の学校教育は、キャリア教育の推進を柱の一つに据える「白い森おぐに保小中高一貫教育」を中心にして、それを強力にサポートする白い森地域学校協働本部を中核とした、地域教育力の活用による町民総掛かりの教育によって推進されている。この理念は町民広報やリーフレット等様々な形で町民に広報されているほか、町内4校の学校運営協議会による合同学校運営協議会でも確認され、強力に推進されている。町民一人ひとりの積極的な協働活動への参加が強く推奨されている。白い森地域学校協働本部は、町内の施設、企業、個人に、協働によるキャリア教育の重要性を直接発信し、理解を求めながら、協力要請を繰り返してきた。また、活動の成果は町の広報を通して報告されているほか、学校通信やHPにより広報されている。白い森地域学校協働本部の地道な取り組みが町民に認知され、職場体験等への協力施設、企業が拡大してきている。さらには、パートナーシップ企業として協働活動の幅を広げる企業も出てきた。また、協働活動の趣旨に賛同し、白い森子ども応援隊として様々な協働活動に参加する町民が増えてきている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

白い森地域学校協働本部は、保小中高一貫教育の推進組織の1つであるキャリア教育推進部から示される小国町保小中高一貫教育キャリア教育全体計画に基づき、各校の活動を支援している。キャリア教育推進部と連携し効果的で効率的な取り組みを目指して、P-D-C-Aサイクルを機能させる組織体制が構築されている。

白い森地域学校協働本部には地域学校協働活動推進員4名が町から配属されている。うち2名は地域の事情に精通した教員経験者であり、そのうち1名が統括的な地域学校協働活動推進員に任命されている。学校、地域の両者に精通した統括的な地域学校協働活動推進員のコーディネートのもと、各推進員が業務を分担し、地域と学校をつなぎ、児童生徒のキャリア発達を促す様々な取り組みを組織的に支援している。

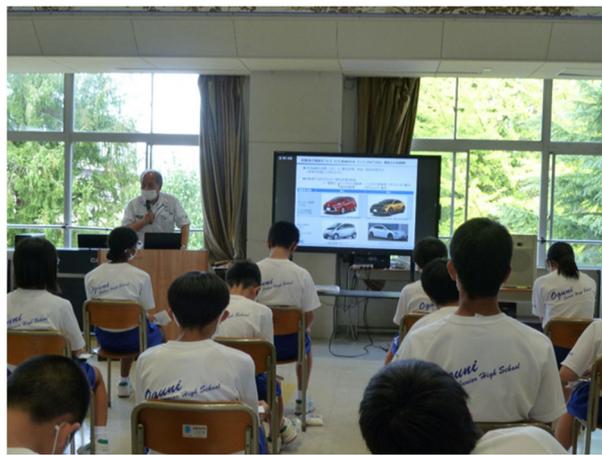
「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

白い森地域学校協働本部は各学校の学校運営協議会、それを統括する合同学校運営協議会の事務局も務めている。地域と学校が協議する場である学校運営協議会を通じて、学校と地域のニーズを含めた、各校の地域学校協働活動の現状を適切に把握している。また、熟議等の研修活動を通して、協働活動によるキャリア教育の重要性を地域に発信してきた。これら実践を通して積み上げてきた地域、学校双方の信頼関係に基づき、交流や体験を重視したキャリア教育が計画的に推進されている。白い森地域学校

協働本部がコーディネート役となり、煩雑な事務手続きを担うことで、学校現場の大幅な負担軽減が図られるとともに、企業担当者による模擬面接、マネー講座等、児童生徒の実態やニーズに応える各校独自の取り組みも生まれ、キャリア教育の活性化につながっている。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

中学校の職場体験、高校のインターンシップに協力してきた町を代表する企業 2 社が子ども健全育成パートナーシップ企業として提携し、小中生への企業見学の実施、協働本部自主事業であるサイエンス講座等への講師派遣等、活動の幅を広げている。また、子ども達のキャリア形成を促す地域の方々との交流活動は、中学生、高校生ボランティアの協力を得ながら行う、協働本部主催の地域体験講座へと発展し、旧小学校区を単位とした町内 7 地区で多くの小中高生が地域に学ぶ体験と交流を行っている。学校では経験できない、多様な学びの場として、参加者並びに町民から好評を得ている。児童生徒が、地域の方々と生き生きと活動する姿を通して、白い森地域学校協働本部が推進する協働体制による交流や体験を重視したキャリア教育の重要性が広く理解され、協力の輪が広がってきている。



＜パートナーシップ企業による出前授業
（翌日の工場見学に向けた事前授業の様子）＞

学校現場の評価・感想・コメント

小学校、中学校ともに総合的な学習の時間と特別活動、教科を連携させ、職業や地域に関わる授業を行うことや、校外での体験活動を増やした。その結果、自己選択と探究的な学びの場を設定でき、体験活動を通して自らより良く伸びようとする意欲や態度、自立した社会人としての素養を身につけさせることができた。白い森地域学校協働本部の支援をいただくことで、学校の負担が減るとともに、子ども達の交流、体験活動が年々充実してきている。感謝したい。

町内企業、施設のキャリア教育への理解が深まり、多くの施設、企業に協力いただいている。自己の適性や職業について理解した上で、進路選択につなげることができた。白い森地域学校協働本部の支援に感謝する。



＜中学校のキャリアスタートウィークでの実習体験
（町内保育園での保育実習体験）＞

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

弊社では地域貢献を重視しており積極的に取り組んでいる。将来地元企業への就職を考えてもらうためにも、小さな時から地元企業の魅力を感じてもらえたらと考えている。

パートナーシップ企業として、工場見学、出前講座、サイエンス講座など様々な取り組みを通して、弊社がどのような物作りをしているか、親御さんも含めて認識してもらうことでこれは徐々に浸透し

てきていると感じている。その結果、地元採用の学生さんが増えつつある。(パートナーシップ企業担当者)

小学校で、読み聞かせ、ミシン作業の講師等をつとめている。読み聞かせでは、感想をお聞きすると、伝えたかった思いが伝わっているようで、嬉しくなった。ミシンの作業では、直接子ども達と話をしながら作業を進めることができ、楽しかった。積極的に質問してくる子や、休み時間も遊びに行かず作業する子もいて、やりがいを感じました。

自分にとって、子どもと触れあえる楽しさや誰かに頼りにされる喜びなど、得るものが多いと思っている。(白い森応援隊参加者)